



ナガバノイシモチ

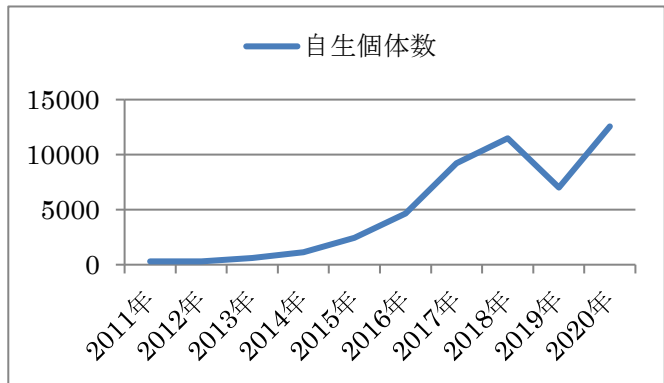
1、2020年のナガバノイシモチソウ

豊橋市のナガバノイシモチソウは7月末日頃を基準に自生数の計測を20年以上続けています。今年は開花も終わり中間報告する機会を逃したので一年分をまとめて報告します。

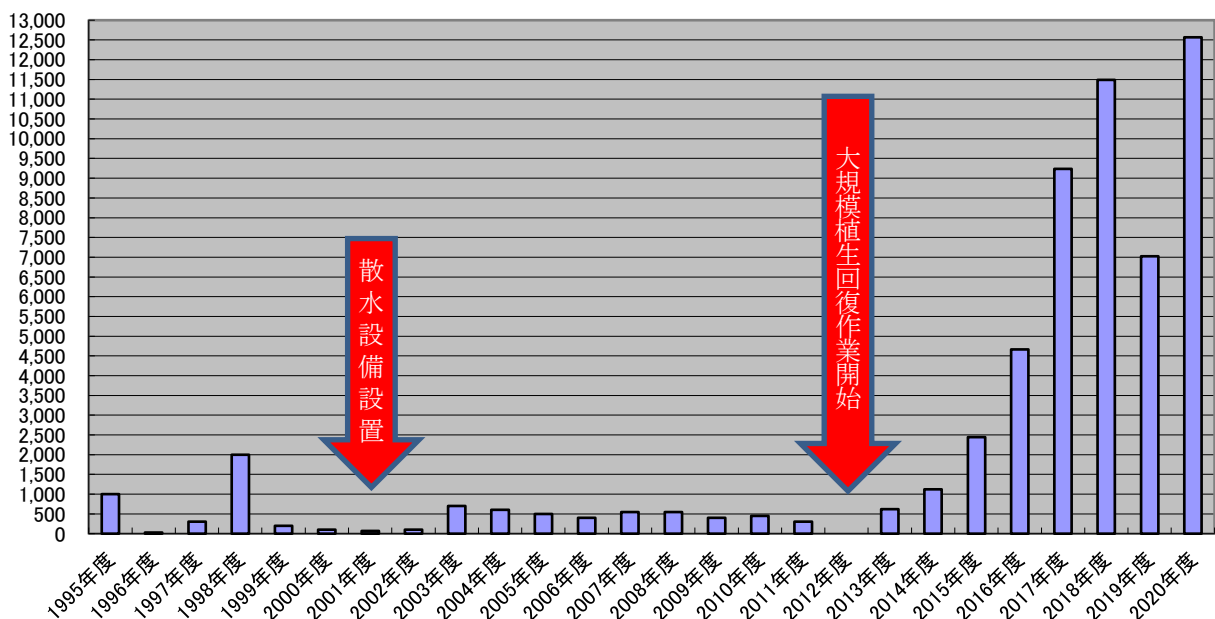
1) 自生個体数の変化

ナガバノイシモチソウは個体数、開花数ともに昨年初めて減少しました。今年の個体数は基準日の7月30日で、**12,565** 個体になり、昨年同時期の**7,022** 個体の約**1.8** 倍になりました。一昨年の**11,487** 個体を超えてこれまでで最高数になりましたが、全体としてはまだ右肩上がりが増えてきている状態です。大規模植生回復作業開始後は毎年前年の2倍近く増加しましたが、これまでの増え方を見ると緩やかなS字カーブのようになっており、そろそろピークが近づいているのかもしれませんが、8月31日には**16,555** 個体になり、7月30日より約30%増えました。

大規模植生回復作業後の自生個体数の変化



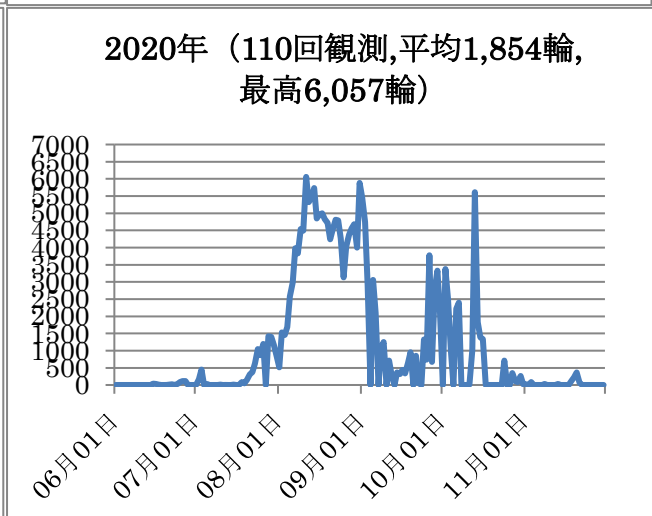
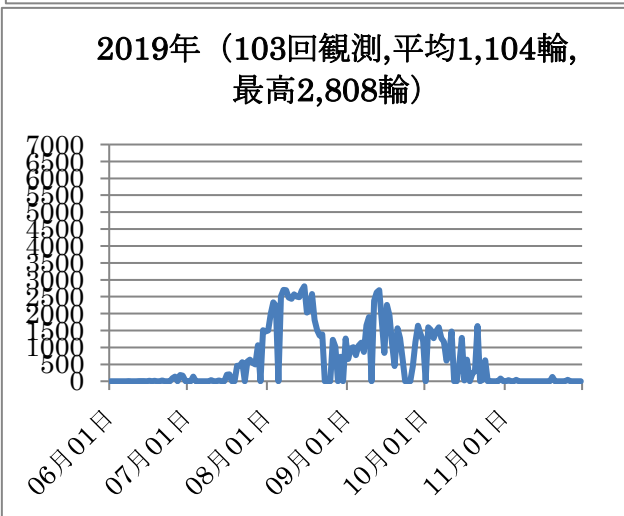
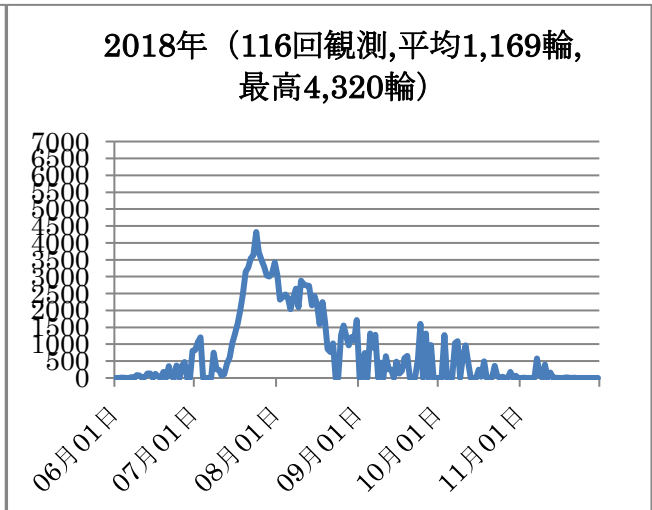
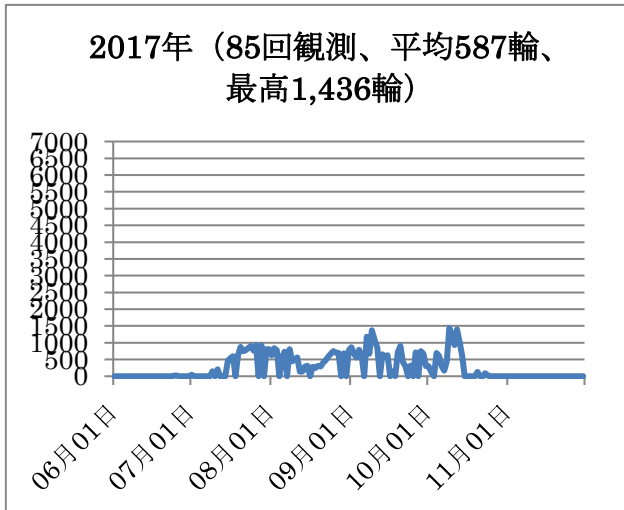
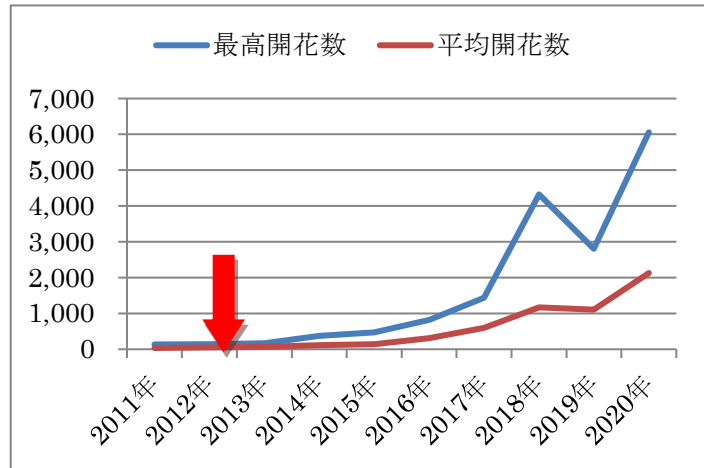
ナガバノイシモチソウ自生個体数の変化(基準日:7月末)



2) 開花数の変化

ナガバノイシモチソウの開花数の変化を見ると、大規模植生回復作業を開始した2013年から2017年までは、最高開花数、平均開花数ともに一定の割合で増加していましたが、2018年は最高開花数・平均開花数ともにこれまで以上に大きく増加しました。2018年は、最高開花数は2017年の1,436輪（10月9日）から、2018年は4,320輪（7月24日）へ約3倍に増加しました。しかし、2019年は最高開花数が2,808輪（8月16日）になり初めて減りました。今年（2020年）は最高開花数が**6,057輪**となり、2019年の2倍以上に急激に増えました。白くなって密集しているところも多くみられるようになり、各個体の成長も良く大きな個体が目立ちます。花茎の本数も花の数も多くなっており、延べ総開花数は初めて20万を超え**203,921輪**になりました。

2018年は水が溜まりやすく水分が多い所でヤマイ、テンツキが勢力を



増し大きな群落になりました。ヤマイやテンツキが勢力を増すとナガバノイシモチソウが発芽できなくなるので、2019年は散水量を1回30分から15分に減らし、ヤマイやテンツキの穂をできる限り除去するようにしました。その結果ヤマイやテンツキは減少しましたが、ナガバノの自生数も減少しました。

今年も散水量を朝夕各 30 分に戻し、7 月に雨が多く 8 月は猛暑で雨が降らなかった気候の状態がナガバノイシモチソウに良かったことが個体数と開花数の増加に繋がったと考えられます。

3) 各地点での状況

今年も第 1～7 地点で白くなって集中する群落が見られました。第 1 地点の写真は、手前が第 1 地点で一番奥が第 7 地点になります。第 1 地点は中心部分が白くなってナガバノイシモチソウが密生しているのが分かります。開花数も多く、8 月 11 日には第 1 地点だけで 3,239 輪が咲き、今年も第 1 地点の最高記録になりました。



第 1 地点 (2020 年 8 月 24 日)



第 2 地点 (2020 年 8 月 24 日)



第 3 地点 (2020 年 8 月 24 日)



第 4 地点 (2020 年 8 月 24 日)



第 5 地点 (2020 年 8 月 24 日)



第 6 地点 (2020 年 8 月 24 日)

第 2・3・4 地点にも白く集中したところがあちこちに見られました。第 5 地点では踏み石の脇に半円状に白くなったところが見られますが、半円の中心部は水が溜まって浅い池状になっているところです。この池の周囲にナガバノイシモチソウが帯状に集中して発芽・開花しました。ナガバノイシモチソウは水分が多すぎない環境を好むようです。

第7地点でもスプリンクラーの周辺と画面右奥に白くなったところが見られます。奥の部分はかつて小さな水溜りがあったところで、この周辺部分で多く発芽・開花しました。



第7地点（2020年8月24日） ナガバノイシモチソウ（2020年8月24日）



（2020年11月19日）

ナガバノイシモチソウは6月上旬頃から開花し、11月下旬まで開花が続きます。例年、10月下旬から11月の花は小さくなり完全に開花することなく先端がわずかに開く程度になります。気温が高いと完全に開花する花も見られますが、ごくわずかです。11月19日は最高気温が24度程度に上がり、今年最後の完全に開花した通常サイズの花が見られました。花は小さくなると通常サイズの花弁1枚程度の大きさになります。



P地点外来種除去作業（2020年11月10日）

2、2020年度作業報告ー1

葦毛湿原の大規模植生回復作業は第3段階に入り、11月10日から作業を開始しました。まず、メリケンカルカヤ、ダンドボロギク等の外来種の除去を優先的に行っています。これまで作業を行った地点のうち、水分が少なく草地に再生されるところは植物の発芽が少なく荒地状態になり、外来種にとって適した環境（右写真上：P地点）になっているようです。

R地点では昨年伐採した木を仮置きしていましたが、この木を小さく（玉切り）して搬出しています。今年度の作業でQ・R地点の抜根作業をバックホーで行う予定です。Q・R地点は壊れた石垣を修理し、埋まった水路を掘り直して水を引き入れ、微環境の多様性に配慮した冠水状態の水田に復元する予定です。



R地点玉切り作業（2020年11月10日）